

模試と同傾向の出題 ～ベネッセ・駿台模試より～

『倫理、政治・経済』  
センター試験・第4問 問5 (一部抜粋)

日本企業が海外展開するにあたっては、相手国の貿易障壁などの影響を受ける。これらをめぐっては、現在 EPA (経済連携協定) を締結する動きがあり、日本は ㉔ EU (欧州連合) との間で EPA 締結に向けた交渉を開始した。なお、国境を越えた人の移動が活発化するなかで、インドネシアなどとの EPA により、看護労働や介護労働の担い手を外国から受け入れる門戸が拡大している。一方、日本では他の先進国に比べて ㉕ 難民や移民の受け入れが少ないのも事実である。

問 5 下線部㉔についての記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一

- つ選べ。
- ① 加盟国間で関税だけでなく、非関税障壁の撤廃も進めている。
  - ② 21 世紀に入ってから、加盟国が増加している。
  - ③ 政治統合を先行させ、次に経済統合を進展させている。
  - ④ 経済通貨同盟の下で、共通通貨を発行している。

第1回ベネッセ・駿台マーク模試・第7問 問7 (一部抜粋)

C : 僕はA君に同感です。㉔ 地域的経済統合にもいろいろありますが、新たに BRICS が ㉕ 経済協力の強化をめざした動きを始めたことに注目してほしいと思います。2012年3月に、インドのニューデリーで BRICS の第4回サミットが開かれ、「デリー宣言」を発表しました。BRICS が国際社会で発展途上国の代表として振る舞うという動きが始まったといえるでしょう。この

…以下省略…

問7 下線部㉔に関連して、地域統合に進む段階は EU を例にすると、次のように「 I 技術や資金面などでの緩やかな経済協力」から「 VI 外交や安全保障の共通化を含む政治統合」まで、合計6つの段階を経る。

その段階ア～ウのうち、 II ・  IV ・  V の段階にあてはまるものの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

62

- I 技術や資金面などでの緩やかな経済協力
- II
- III 域外への共通関税を採用する関税同盟
- IV
- V
- VI 外交や安全保障の共通化を含む政治統合

- ア 共通通貨を導入する通貨統合
- イ 域内での関税を撤廃する自由貿易地域
- ウ 資本や労働者の移動を自由化する市場統合

- ① II-ア IV-イ V-ウ
- ② II-ア IV-ウ V-イ
- ③ II-イ IV-ア V-ウ
- ④ II-イ IV-ウ V-ア
- ⑤ II-ウ IV-ア V-イ
- ⑥ II-ウ IV-イ V-ア

今回のセンター試験・『倫理、政治・経済』第4問、問5 (解答番号 24) では、EU (欧州連合) についての正しい理解と知識が求められた。EU は政治的統合 (外交面含む) もめざしているが、経済的統合が先行していることを理解するとともに、EU に関して加盟国が増えている点や関税、通貨統合など多面的に正しく理解をしておくことが求められた。やや踏み込んだ内容であり、学習量によって差がつくであろう。第1回ベネッセ・駿台マーク模試の第7問、問7 (解答番号 62) では、このEU の多面的な特徴を統合の段階ごとに関連付けて出題した。当初は石炭と鉄鋼を協同管理する組織で緩やかな経済協力であったものが、域内関税撤廃→域外への共通関税→市場統合→通貨統合→政治的統合と展開していくことを扱った。センター試験に対応するためには、教科書で学んだ知識を有機的につなげた盤石な理解が求められる。なお、本問の正答率は 20.8% で、偏差値 60 以上では 35.7%、偏差値 55～60 では 26.2%、偏差値 50～55 では 22.9%、偏差値 45～50 では 16.5%、偏差値 45 未満では 10.6% であった。確実な定着かつ、習得した内容を応用する力も見通した学習を、問題演習を通してめざしたい。